

大学評価学会第 11 回大会

開催日：2014 年 3 月 1 日（土）～2 日（日）

会 場：山梨大学（甲府キャンパス）

大学評価学会は、2004 年 3 月 28 日に設立され、2014 年で 10 周年を迎えた。記念すべき第 11 回大会のテーマは、学会設立時の総会決議「大学評価京都宣言＝もう一つの「大学評価」宣言」を踏まえつつ、「いま求められる若者のキャリア形成と大学教育・大学評価」とされた。そして、シンポジウム、自由研究発表 2 会場、課題研究分科会 4 会場が催された（大会実行委員長：日永龍彦 [山梨大学大学教育研究開発センター]、参加者 66 名）。

1 日目午前の自由研究発表では、「移行問題・発達保障」（A 会場）に関わって 4 件、「大学評価・大学政策」（B 会場）に関わって 4 件の発表がなされた。

1 日目午後のシンポジウムでは、ゲストとしてお招きした児美川孝一郎氏（法政大学）の「大学と職業の「忘れられた連関」を取り戻す——大学におけるキャリア支援・教育の現状と今後の課題」と題する基調講演に続き、小池由美子（埼玉県立川口北高等学校）「キャリア教育と人格形成——高校生・青年の成長、発達を保障するために」、日永龍彦「大学評価における「学生のキャリア形成」の位置づけ——評価によるキャリア形成支援の可能性」の報告がなされ、一般参加者を含めて意見交換した。

2 日目の課題研究分科会は、午前に「発達保障」（テーマ：グローバル人材育成と発達保障の相克）と「大学経営」（同：改善につながらない「大学経営評価」——認証評価は「大学経営」の何を評価しているのか）が、午後に「教職協働」（同：学生を主役とした学習支援者としての教職協働）と「13 条問題」（同：「無償教育の漸進的導入」留保撤回後の研究と運動の進め方）が開催され、各 2～3 本の話題提供をもとに論議を深めた。

学会総会では、第 3 回「田中昌人記念学会賞」について、石井拓児会員（愛知教育大学）と田中秀佳会員（帝京短期大学）に授与されることが発表された。

なお、大会時に刊行された年報『現代社会と大学評価』第 8 号（テーマ：「質保証」を問い直す——発達保障からのアプローチ、晃洋書房、1800 円＋税）は書店等で購入できる。また、大会予稿集（全 83 頁）は残部が若干あるので、希望者には送料実費で頒布可能である（詳細は学会 HP <http://www.unive.jp/> に記載された学会事務局まで）。

（文責：渡部 昭男）